

～患者の QOL 向上を目指した義歯製作～

日技認定講師 戸田 篤
(東京都歯科技工士会)

益々超高齢化が進み、デンチャーの重要性は増している半面、デンチャーに対するイメージは良い状況と言えるでしょうか。デンチャーに悪いイメージを抱いているのは患者さんだけではありません。日本の歯科技工士の約9割が保険の枠でデンチャーを作っており、対価や材料やテクニックを自由に選択できないまま不本意なデンチャーを製作しているのが現実ではないでしょうか。近年の歯科技工はデジタル化が進み画像処理システムやコンピューター加工技術がますます進化していて、デンチャーもCAD/CAMや3Dプリンターなどによりデジタル化しつつあります。ですが決してコンピューターソフトがすべて製作するわけではなく、正しい知識を持った歯科技工士のコントロールによって設計され形にする。デンチャーの正しい製作法を学ばなければ患者さんを満足させるデンチャーはできない。

1. 臨床総義歯技工の基礎

無くなってしまった口腔内の審美と機能の回復を目指し「噛む」ことだけではない、模型の上の適合に合わせ口腔内に調和させるための知識と技術を知ること、解剖学的ランドマークを活用した模型設計の大切さや時短を考え調整量の少ない人工歯の選択や失敗の少ない人工歯配列法、発音や嚥下運動を考えた歯肉形成など、基礎的な臨床総義歯から製作法を解説したい。

2. レイヤーデンチャー(積層義歯の製作法)

保険で良い物が作れないとは言いませんが材料や時間の問題を考えると限界があります。素材もテクニックも日々進化しています。最良を考え適正な材料やテクニックを選ぶことによりもっと様々な質の向上したデンチャーを製作できるはずです。

私は歯科技工士になり故 河邊清治先生の歯科医院に勤めていた頃から現在に至るまでの44年、患者さんのQOL向上を目指したより良い義歯製作するために保険の枠にとらわれずに取り組んできました。

パーシャルデンチャーは審美と機能を両立するための修理加工のできるPMMAによる「**弾性レジンクラスプデンチャー**」や目的に応じた**レイヤーデンチャー(積層義歯)**の中から「**CPデンチャー®**」、「**カラーレイヤーデンチャー**」、「**シリコンレイヤーデンチャー**」など。目標を明確にし、患者さんのQOL向上を目指し、素材とテクニックを駆使したデンチャーを視覚的に分かりやすいように写真からシンプルに解説したい。